


『第5回学生が選ぶインターンシップアワード』学校応募データ			
			
学校情報			
		学校区分	公立
		管理ID	200394
ISタイトル			
宮城大学 学外研修（インターンシップ・アドバンスト・コース）			
オリエンテーション 事前学習（実施項目）			
インターンシップ参加目的の明確化 インターンシップの内容説明 職業適性・自己理解などを深めるワーク 業界・企業・仕事内容の説明 マナー等社会人基礎の講習・レクチャー 学生1人ひとりに対する目標設定 その他			
オリエンテーション 事前学習 内容詳細（自由記述）			
【参加学生の募集】最初の募集説明会で受入企業の概要とインターンシップ内容を説明し、学生は納得した状態で応募できる企画設計を実施。 また、2年生前期必修科目「インターンシップⅠ」での学びがインターンシップ参加の基盤になっている。学習内容は、2020年度にコロナ禍の状況を踏まえて本学独自に制作した2冊のインターンシップ教科書（以下、独自教科書）を使用してインターンシップの基本から重要事項を学び、8社以上の企業にオンライン講義（業務内容、インターンシップ内容、期待する人物像等）も実施している。よりインターンシップへの理解を深めたうえで参加している。 【事前学習会】4名の教員により次の教育を実施 ①オンラインインターンシップ参加の意義や注意事項、目標設定について学習 ②ビジネスマナー教育では礼儀作法・考え方だけでなく、オンラインコミュニケーションについて具体的に解説 ③オンラインでの自己紹介やグループワークを演習で体験。受入企業の発行書籍（マーケティングリサーチの本）を指定図書として自学自習も促した。 インターンシップ参加目標を指定のシートに記入し、目的の明確化と積極的なコミットメントを見える化した。			
インターンシップ 実施項目			
【実務体験】実際の業務を一部実施 【疑似体験】ロールプレイングやシミュレーション形式の仕事体験 【疑似体験】課題に対するグループワーク（企画立案、課題解決、プレゼンなど） 【疑似体験】課題に対する個人ワーク 【交流】社員との座談会 【交流】参加学生との座談会 【その他】職業適性・自己理解などを深めるワーク 【その他】人事や社員による講義・レクチャー 【その他】就職活動に対するアドバイス・レクチャー その他			
インターンシップ 内容詳細（自由記述）			
【目的】本学では、企業・行政等での働くことの意義や大学教育との関連性を学生が掴む機会として、低学年からインターンシップ教育を体系的に実施している。 【背景】本プログラムは事業構想学群と食産業学群の学群共同プログラムとして、2018年度から多数の企業の協力をえて2年生・夏休み5日間に対面実施してきた。2021年度はコロナ禍で対面実施が難しいため、今後の産学連携インターンシップのモデル開発を視野に入れて、5日間でのフルオンライン型を初めて企画・実施した。複数の企業と担当教員が慎重に協議し、教育効果が高いプログラムが可能な2社と連携した。 【プログラム内容】本プログラムは、①「事前学習（学内・1日）」②夏休み期間中に企業が提供するプログラム（5日間）③包括的学びの振り返りと学びの応用・実践のための「事後学習（学内・1日）兼全体発表会」で構成。 【②について補足】※宮城大学独自のプログラムとして、当日の内容及び事後学習まで企画設計 応募者を募って志望理由や分野適性をもとに、受入企業に参加者を割り当てた。 事業構想学群はマーケティングリサーチのトップ企業の(株)マクロミルと連携した。学生達は同社の人事及びリサーチ部門の専門家の指導の下で、実際のビジネスデータを活用し、マーケティングリサーチの調査設計からデータの集計・分析、さらに提案を作成するという一連の業務を実践的に体験できるようにした。 食産業学群は従来からつながりが深いみやぎ生活協同組合と連携した。事前に実際に店舗で取り扱っている商品群を参加学生に送付し各自で商品の評価を行った。オンラインプログラムでは商品群についてグループワークを通して環境問題や組合の課題など様々な視点でビジネスを考える重要性を実践的に学んだ。 両社のプログラム共に社員が仕事で取り組む内容を体験し、最後は各学生の提案発表に社員達が講評する機会をつかった。教員は適宜オンラインで参加して、プログラムの進捗や学生の様子などを把握した。 プログラム期間中は毎日、大学の学修システム（MS Teams）に日報を提出し、行った業務のほか、自己の成長のために何が必要か、次回への目的設定なども行った。 また、オンラインで複数の社員との交流会を実施し、多角的な視点で就業への理解を深めた。(株)マクロミルはコロナが落ち着いた時期に企業訪問の機会を用意して、対面で社員達との座談会も実現した。			
協力社員の属性			
課長（マネージャー） 主任（チームリーダー） 若手社員			
具体的社員交流			
事業構想学群と(株)マクロミルとのプログラムでは、マーケティングリサーチ実務の責任者が一貫して指導を担当した上で、内容に応じて他のリサーチ部門の社員も関与した。さらに、学生によるプログラム内での最終発表会でも複数の社員が多面的な視点でコメントやアドバイスを行った。最終発表会の後は、オンラインでZoomのブレイクアウト機能を使って、学生が少人数のチームに分かれて複数の社員と意見交換を行い、それを時間ごとにローテーションして全ての社員と意見交換ができるようにした。 食産業学群とみやぎ生活協同組合のプログラムでは、学生が実際に店舗を訪問して、商品の陳列や内容を見学して最終発表会の発表に反映させるようにした。また、プログラム終了後、さらに組合から各学生に対して個別フィードバックも行った。 教員はプログラム内の交流の場にはオンラインで適宜参加して状況把握を行った。 両社のプログラムが終了した後、あらためて事後学習として全学生、両社関係者、全担当教員が集まってオンラインで最終発表会を行った。そこでは、自分のインターンシップ先とは異なる企業の実務担当者達からも意見を頂く機会をつかった。			

NO.

インターンシップ情報				
開催月	2021年6月	2021年7月	2021年8月	2021年9月
対象属性（文理）	特に対象は決めていないまたは受け入れ先によって異なる			総受入人数
低学年参加	大学低学年を積極的に受け入れていて、参加があった			単位認定
他学校などの連携か？	いいえ	報酬・支給	報酬・支給等はない	
実施形式	全てオンラインで実施			

フィードバック手法			
グループに対する口頭でのフィードバック 個人に対する口頭でのフィードバック その他			
フィードバック時間	30分未満	フィードバック頻度	プログラム期間中複数回実施した
FB内容詳細（自由記述）			
事業構想学群と(株)マクロミルとのプログラムでは、最終日5日目の発表会の後に複数の部門の社員より個別のフィードバックを頂いた。 食産業学群とみやぎ生活協同組合のプログラムでは、インターンシップ終了後、別日に日程調整した上で、組合より個別フィードバックを頂いた。 個別のフィードバックでは、オンライン受講方法や課題提出、グループディスカッションのポイント、プレゼン方法などを細かく伝えて頂いた。参加学生にとって今後の学生生活やキャリア形成にむけて実践的で大変具体的なフィードバックを得ることができた。 さらに、受入企業2社（株式会社マクロミル、みやぎ生活協同組合）の担当者に、「事後学習（学内・1日）兼全体発表会」にも出席いただき、本プログラムに参加した他のコースを学んだ学生含めた全体に対して、今後のインターンシップの活用方法や、大学生活、今後のキャリアをどう考えるかなどについて、幅広くフィードバックを頂いた。 学生の感想は「専門知識以外に社会で大切なノウハウを学べた」「自分の改善点を毎回見つけることができ有難かった」「来年以降もぜひ実施して頂きたい」と、終了後アンケートでは満足度100%であった。 フォローアップ 事後学習（実施項目）			
学生自身によるインターンシップ経験の振り返り・学びの言語化 個人面談 発表会・報告会 その他			
フォローアップ 事後学習（自由記述）			
本プログラムに応募時に、参加学生に受講目的の明確化・具体化を必ず行い、その内容は受入企業とも共有してプログラムの内容や進捗で配慮を得た。インターンシップ終了後、事業構想学群と食産業学群の合同で参加学生全員と企業を招いて「事後学習（学内・1日）兼全体発表会」を実施した。各学生はインターンシップで学んだ内容や今回の経験の活かし方について発表を行った。これにより、他社のインターンシップを受講していた内容や学びについても改めて俯瞰することができるようになり、定性的な教育効果と今後の成長のための課題を明確にした。さらに、事前と事後のアンケート調査による効果測定を行った。 また、本プログラム終了後もMS Teamsによりオンラインで、他のインターンシップ等を継続的に紹介し、培った能力の活用を促している。 参加学生は5日間の本プログラム参加で自信を持ち、自らの視野を広げるために様々な業種のインターンシップに挑戦している。さらに、2022年1月にマイナビの協力を得て、実践的な学内インターンシップ・セミナーを開催し、春休みにインターンシップを有効活用できるように、実施後も継続的に支援している。			
工夫ポイント（自由記述）			
本学独自の包括的・体系的なインターンシップ教育を目指して、全学組織のインターンシップ開発室では、2020年度に本学学生の体験を盛り込んだ全180頁に及ぶ独自の教科書『大学生が考えた成功するインターンシップ第1巻・第2巻』を出版し、各学年の講義で活用している。インターンシップは低学年から参加することを推奨し、一般的な大学の1年先を行くことを目指している。 さらに、コロナ禍で注目を集めるフルオンライン型インターンシップを5日間行う先進事例として、本プログラムの解説動画を制作した。受入企業、学生、大学教育としての効果という3つの視点で多角的にインターンシップの意義や活用方法を学べる構成にしている。学生はオンライン型の特徴や課題を理解したうえでインターンシップに参加でき、教育的効果の向上が期待できる。次年度以降に新たな学生や企業の積極的な参加を促し、プログラム全体の質的向上にもつながる。 このように、低学年から包括的・体系的なインターンシップ教育を実施して基礎知識やスキル習得ができ、早期に対面やオンラインのインターンシップ参加を促すことで、実行力の高い全学的・組織的なプログラムを展開している。			
教育的効果（自由記述）			
本学では、低学年からキャリア教育科目と連動し、対面型やオンライン型など多様なインターンシップ教育を実施している。 本プログラム（学外研修）は低学年である2年生を対象として、インターンシップ科目体系の中間に位置し、2年生前期で学んだ基礎を生かす実践の場である。教科書で指定された5種類のワークシートを用意して、インターンシップ参加前の自己分析・自己PRの作成、参加に向けた計画立案、参加中の日報、振り返りの必須化など、複数学年で体系的に成長するステップを用意している。 また、インターンシップ担当教員の大半は兼務で、経営学やデジタルマーケティングなど他の専門科目を主担当としている。それらの専門科目の講義の中で、実際の企業での現場の説明をする際に、インターンシップで学んだ内容について言及し、次のインターンシップで獲得を目指すべき事柄についても解説している。このように、インターンシップが単なる職場体験で終わらずに、大学の学習深化や、学習意欲の向上につなげることを意識して、インターンシップと専門教育の連携にも力を入れている。			
改善活動（自由記述）			
本学のキャリア科目による教育、インターンシップ、キャリア支援（就職支援、企業との連携強化を含む）を体系的かつ効率的に実施するため、全学組織としてキャリア・インターンシップセンター（CIC）を設立し、その中にインターンシップ開発室（IDD）を設置している。CICにおいてキャリア開発やインターンシップの業務を通じて収集された情報や大学に関係する企業情報を一元化している。IDDが本プログラム（学外研修）を担当することで、全学教育との有機的な連携を図っている。 本学は、従来から研究室単位でもオンライン型インターンシップの実践を早期に着手して、その実績を解説動画にして水平展開を図っている。本プログラムの解説動画に加えて、就活を終えた4年生がインターンシップの体験と意義を振り返る動画教材を作成しており、学生が自主的に学を深めて自律的にインターンシップに参加する支援を行っている。 さらに、優良な連携先企業を開拓するために、『企業向けインターンシップ実践ガイド（仮称）』を開発して、企業に提供することで、対面とオンライン両面での効果が期待できるインターンシッププログラムの開発・実施を推進している。			